

## 令和7年度第2回広島市公立大学法人評価委員会 会議要旨

### 1 開催日時

令和7年7月31日（木） 14:00～16:05

### 2 開催場所

広島市立大学サテライトキャンパス セミナールーム1

### 3 出席者

#### (1) 委員

河原委員（委員長）、酒井委員、原田委員、深井委員、深見委員

#### (2) 公立大学法人広島市立大学（令和6年度業務実績の評価に入る前に退席）

前田理事長（学長）、永山理事（副学長）、卜部理事（副学長）、金森理事（事務局長）、事務局次長（事）企画室長

#### (3) 事務局

企画総務局長、行政経営部長、行政経営課長

### 4 議事

令和6年度における業務実績に関する評価について

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

0名

### 7 会議資料名

(1) 資料1 広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(2) 資料2 令和6年度における業務実績に係る評価委員会委員からの質問・意見に対する回答について

(3) 資料3 令和6年度における業務実績に関する項目別評価（総括表）

(4) 資料4 令和6年度における業務実績に関する評価表（小項目・大項目評価）

(5) 資料5 令和6年度における業務実績に関する評価表（全体評価）

(6) 参考資料1 公立大学法人広島市立大学の中期目標期間（令和4年度から令和9年度まで）における各事業年度の業務実績の評価について

(7) 参考資料2 関連法令

### 8 議事の概要

令和6年度における業務実績に関する評価を「A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。」と決定した。

## 9 発言要旨

### (1) 各項目の評価について

#### ア 大項目①「教育」について

##### (7) 小項目④「特色ある教育」について

(河原委員長)

- ・ 地域志向教育は、地域志向特定プログラムの修了認定者数を令和9年度までに60人とする数値目標が掲げられている。令和5年度が27人、令和6年度が30人で微増となったが、令和9年度までに数値目標（60人）を達成するのは難しいのではないかと。また、リーダーシップ研修プログラムは、実施内容が令和5年度と余り変わりがないように思えた。

(深井委員)

- ・ 大学の特色として、地域との連携にしっかりと取り組んでいかなければならないということに大学側にしっかりと伝えておく必要はある。

(河原委員)

- ・ 評価委員会の資料は大学側も見えていて、意見としては伝わっていると思うので、評価は「B」としたい。【異議なし】

##### (8) その他の小項目について

(河原委員長)

- ・ 小項目①「全学共通教育」、小項目②「学部専門教育」、小項目③「大学院教育」及び小項目⑤「教育方法等の改善（教育の質保証）」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

##### (9) 大項目①「教育」について

(河原委員長)

- ・ 大項目①「教育」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

#### イ 大項目②「学生の確保と支援」について

##### (7) 小項目⑥「学生の確保」について

(河原委員長)

- ・ 大学院の定員割れは、令和6年度以前から状況は変わっていない。私自身は、定員未充足ということを重くみて「B」評価とした。

(深見委員)

- ・ 大学院の入学者数が定員を下回っていることに対する懸念は私も同じだ。ただ、ここの「学生の確保」の項目は、大学院のみでなく、学部も含まれる。学部がしっかりと一定の倍率を保っていることを踏まえると、大学全体としての「学生の確保」に対する評価は「A」でよいのではないかと。逆に私は、小項目⑧「研究活動の活性化」については「B」評価とした。研究は大学院が中心に行っているため、大学院生が確保できないということが研究に直結するからだ。科学研究費の獲得に関しても、申請率は上がっているものの、「A」と評価するには足りないと判断し、「B」評価とした。

(酒井委員)

- ・ 大学院生の確保は今どこの大学も厳しいので、この程度の定員充足率であればよいので

はないかなと、余り高望みはできないだろうということを前提に、学部も含めて「A」評価とした。大学は一般的に授業に関するアンケートを実施していると思うが、学生の授業への満足度というのもある程度評価の対象となるのではないかと思う。定員割れの状況でも、学生が凄く良い指導を受けているという印象を持っているのであれば、それは評価できと思う。そのため、大学院でも授業アンケートを実施しているのかが少し気になった。

(原田委員)

- ・ 文系は法学部でもかなり入学者数が減ってきているため、定員充足率が半分程度であれば良い方ではないかと思う。

(河原委員長)

- ・ 現実的に、定員を充足し続けることは不可能である。学部生は十分確保できているので、大学全体としては「A」評価でも良い。

(酒井委員)

- ・ 社会科学系は、大学院に進学しても良い就職先に就職できるということが見通せない。これは市立大学だけではない。

(深井委員)

- ・ 博士号を持っていないと大学の教員にはなりにくい。

(深見委員)

- ・ 最近は、大学院は有名校でも入りやすくなっているので、優秀な学生が他の大学に行ってしまうというのは、トップ校以外はどこの大学でも起きている。そのような状況の中でどこまで頑張れるかというのはなかなか難しいと思う。努力していないわけではなく、色々やっていると思う。

(河原委員)

- ・ では、この項目については「A」評価としてよいか。【異議なし】

(イ) 小項目⑦「学生への支援」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑦「学生への支援」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(ウ) 大項目②「学生の確保と支援」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑥「学生の確保」、小項目⑦「学生への支援」とともに「A」評価であるため、大項目②「学生の確保と支援」も「A」評価としてよいか。【異議なし】

ウ 大項目③「研究」について

(イ) 小項目⑧「研究活動の活性化」について

(深見委員)

- ・ この項目は、前理事長の時の大学の自己評価はずっと「B」評価だったと思う。

(河原委員長)

- ・ 令和5年度と異なるのは、情報系の論文数が増えたことだ。また、科学研究費の申請率も伸びた。

(深見委員)

- ・ 申請率は伸びており、そこは評価できるが、結果は結果なので。情報学研究科はニーズが高く、分野横断での研究が求められているため、もっとできと思う。まだ伸びしろが

あると思う。一方、他の研究科は、科学研究費と相容れない部分もあるかと思うので、科学研究費のみで研究活動の活性化を評価してよいのかなと思う。

(深井委員)

- ・ 芸術系も保存修復関係は科学研究費を獲得しやすい。ただ、3つの研究科があり、相互に連携することが期待されている中で全てが中途半端になっているのはもったいない。

(酒井委員)

- ・ 私も物足りなさは感じている。素材は良いのでもう少しできるのではないかと感じる。ただ、科学研究費の申請率が伸びたことは、今後に向けてのワンステップになる。まずは申請していかないとだめだね、というところからようやく今始まったのだと思う。国際系は旅費が高く、分担金では旅費を賄えなくなってきたので、今後科学研究費を獲得しないといけなくなっていくのではないかとと思う。

(河原委員長)

- ・ 件数もそうだが、規模が小さい。

(酒井委員)

- ・ 3研究科が連携することで規模を大きくするというポテンシャルはあると思うので、そこを実際にやれるかどうかは理事長などのリーダーシップにかかっている。

(深井委員)

- ・ 新しく採用したURAがどの程度教員を指導するかだ。

(河原委員長)

- ・ URA 1人で3研究科全てをカバーすることは困難だと思うが、それなりに動き始めると思う。規模の大きなものを目指す教員が出てきてほしい。

(酒井委員)

- ・ 1人でもいれば違うと思う。自分もやってみようかという波及効果が期待できる。

(河原委員長)

- ・ 大学側は、自分たちとしては頑張ったところがあると。特に、研究・芸術活動の活性化に向けた支援制度・体制の見直しについては力を入れて取り組んで、成果も感じているようなので、ここは「A」評価としてよいか。【異議なし】

(イ) 小項目⑨「研究成果の積極的な公開及び還元」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑨については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(ウ) 大項目③「研究」について

(河原委員長)

- ・ 大項目③については、小項目⑧「研究活動の活性化」、小項目⑨「研究成果の積極的な公開及び還元」とともに「A」評価であるため、「A」評価としてよいか。【異議なし】

エ 大項目④「地域・社会貢献」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑩「地域連携及び産学官連携の推進」及び小項目⑪「生涯学習ニーズ等への対応」並びに大項目④「地域・社会貢献」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

オ 大項目⑤「平和」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑫及び大項目⑤「平和」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

カ 大項目⑥「国際化」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑬「国際交流の推進」及び小項目⑭「日本人学生及び留学生への支援の充実」並びに大項目⑥「国際化」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

キ 大項目⑦「業務運営の改善及び効率化」について

(7) 小項目⑮「戦略的、機動的かつ効率的な運営体制の構築及び運営の実施」について

(河原委員長)

- ・ デジタル化の推進、教育DXプラットフォームの刷新など、大学の運営に関しては、今後の基盤となるような取組がなされたと感じており、事務的には随分頑張られたと思った。デジタル化が進むことによって様々なものの効率が良くなるのは間違いないし、色々なところに影響があるものだと思う。URAの採用も含め、組織体制は変わりつつあると思う。

(酒井委員)

- ・ 色々取り組んだということは伝わるが、このような効果が出たというのが大学の自己評価からは見えなかったため「B」評価とした。このような効果が出たということを記載してもらえれば、来年度はそこを評価できる。

(深見委員)

- ・ 情報基盤担当としての実務家教員を1人採用しているが、この辺りは評価できる。デジタル化が当たり前となってきた中でそこに対応するのは当然ではあるが、きちんと対応したということは評価してよいと思う。

(河原委員長)

- ・ セキュリティの問題等は、教員や事務員だけで対応することは困難であると思うので、実務家教員を入れることによって管理体制は変わるはずだ。

(深見委員)

- ・ 当たり前のことをきちんとやるというのは、思っているよりなかなかできないものであり、その点は評価できる。

(河原委員長)

- ・ 小項目⑮については、「B」評価として、全体の評価コメントで言及する方が大学側に伝わると思うが、それでよいか。【異議なし】

(イ) 小項目⑯「社会に開かれた大学づくりの推進」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑯「社会に開かれた大学づくりの推進」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(ウ) 大項目⑦「業務運営の改善及び効率化」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑮「戦略的、機動的かつ効率的な運営体制の構築及び運営の実施」が「B」、小項目⑯「社会に開かれた大学づくりの推進」が「A」と評価が分かれたが、大項目の評価はどうするか。私は、「B」よりは上だと思って「A」評価としたが、ここは悩ましい。

(酒井委員)

- ・ 大項目④では、小項目の評価が「A」と「B」とで分かれたが大項目評価は「A」としているので、そういう意味では、ここも「A」評価でも問題はないと思う。

(河原委員長)

- ・ では、大項目⑦は「A」評価としてよいか。【異議なし】

ク 大項目⑧「財務内容の改善」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑯及び大項目⑧「財務内容の改善」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

ケ 大項目⑨「自己点検、評価及び情報の提供」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑱及び大項目⑨「自己点検、評価及び情報の提供」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

コ 大項目⑩「その他業務運営」について

(河原委員長)

- ・ 小項目⑲及び大項目⑩「その他業務運営」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

## (2) 全体評価

(河原委員長)

- ・ 大項目評価の結果を評価基準に照らすと、業務実績に関する全体評価は「A」となるが、どうか。【異議なし】

## (3) その他

(河原委員長)

- ・ 令和6年度における業務実績に係る評価結果については、最終的に各委員からのコメント等を参考に、全体評価としての委員長コメントを作成することになっているが、追加しておきたいコメントはあるか。先ほどまでで出たのは、各学部・研究科の連携体制をもっと図ってほしいということ、運営体制について改善がなされているので、来年度以降にその成果を出してほしいこと、入学者数のこと、ハラスメントのことだ。

(酒井委員)

- ・ 大学院の定員のことを。もう少し募集を強化するということと言ってもよいと思う。

(深井委員)

- ・ 開学から30年が経ち、芸術学部においては創立当初の教員は全員入れ替わっていると思う。理事長等も本年度替わったので、40周年、50周年に向けての次期ビジョンを策定してもらいたい。

(河原委員長)

- ・ 中期計画は6年単位なので、それとは別の形で、方向性や位置付けを変えて策定してもらうことは可能だと思う。

以上